

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	医療福祉学分野
学籍番号	20S3041	院生氏名	高石 麗理湖
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	医療ソーシャルワーカーの実践過程を支える経過記録法のあり方 —生活支援記録法 (F-SOAIP) の導入によるアクションリサーチ—		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格

<審査結果の要旨>

ソーシャルワークにおいては実践と経過記録との関連が不明瞭であるとの現状把握をもとに、医療ソーシャルワーカー (MSW) を対象に、経過記録法の形式とソーシャルワーク実践の関係性及び MSW の実践過程を支える経過記録法のあり方を明らかにすることを目的に、大きく2つの研究を行った。第1は1,081名のMSWを対象に郵送調査を実施し、192票 (回収率: 17.7%) を回収し、決定木分析を行い、郵送調査で協力が得られた8名を対象にした半構造化面接調査をもとにKJ法により質的分析を行い、さらに全国調査対象者から任意提出してもらった経過記録28票を、SOAP、叙述形式、F-SOAIPの経過記録法について比較検討を行った。第2は、第1の全国調査の際に募った33名のMSWを対象に、F-SOAIPの研修を実施することでアクションリサーチを行い、研修による効果および経過記録の目的と認識やソーシャルワーク実践時の意識にどのような変化をもたらすのかを明らかにした。なお、これらの全ての調査については国際医療福祉大学等の倫理審査で承認を得て、実施している。

結果として、第1の研究からは、使用する経過記録法や経過記録学習程度によりソーシャルワーク実践の意識に差が生じること、記録作成の基準の不明瞭さ、アセスメント記録の不十分さ、経過記録や経過記録法への関心の低さ、F-SOAIPの有効性を明確にした。第2の研究の結果として、F-SOAIP導入により「面接時の支援の根拠」「記録時の支援の根拠」「記録時の利用者の生活歴や人生」「記録時の利用者の人間関係」「記録時の利用者の強み」の意識が高められ、MSWとしての専門性の向上やクライアントを全人的に捉えようとする意識の向上が示された。

結論として、経過記録法により実践は影響を受けること、F-SOAIPはソーシャルワーク実践過程に即している点で、MSWの実践過程を支える経過記録法であることが確認できたとしている。

研究方法としては、量的な調査研究、質的な調査研究、研修実施の前後での変化を比較する介入研究と広範囲な研究方法を駆使しており、同時に国際医療福祉大学の倫理審査の承認を得て実施している。それぞれの調査において信頼性・妥当性のある分析を行っている。

本研究の新規性として、従来研究対象にほとんどされてこなかった経過記録に焦点を当てたことで、経過記録の重要性を明らかにし、さらにソーシャルワーク実践と経過記録の関係では、経過記録法の違いにより実践に影響すること、F-SOAIPの特徴である焦点化することでストレングス視点が提示しやすいことを明らかにしたことにより、今後のソーシャルワークでの経過記録のあり方に大きく貢献する研究であり、高く評価される。

審査会は12月1日と1月5日の2回開催し、初回審査で経過記録法の評価を客観的かつエビデンスに基づくように論文の修正を求めたところ適切に修正された。また、2回の審査会で審査担当者の質問に適切に回答した。

以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (医療福祉学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者

主 査 白澤 政和

副 査 篠原 信夫

副 査 小林 雅彦